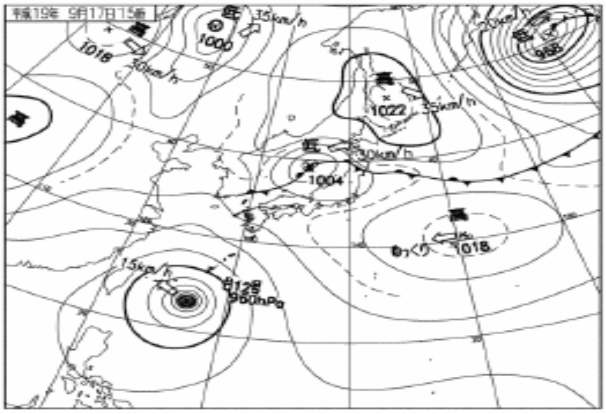
気象と洪水概要

停滞した秋雨前線に湿った空気が流れ込んだ影響で、雄物川では玉川流域を中心に９月１６日から１８日にかけて大雨となった。

この大雨により、玉川及び雄物川中流部では水位が上昇し、堤防が整備されていない地区では、水田等の浸水被害が発生した。

支川玉川の長野水位観測所では、観測開始以降最高の水位４．８３ｍを記録したが、玉川ダムの洪水調節効果により、堤防の越水を免れた。

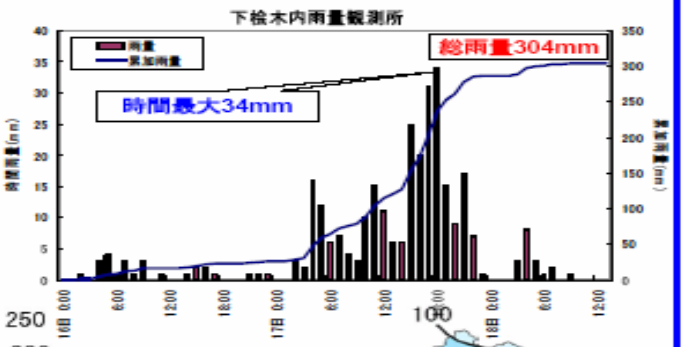


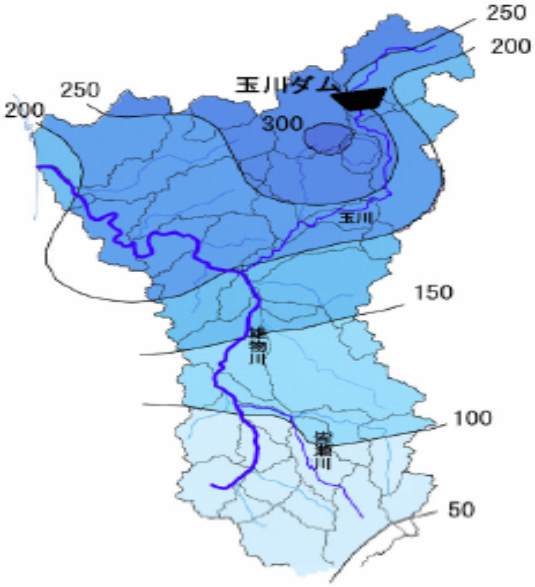
玉川流域で大雨～降雨状況～

今回の降雨量を、直近で大きな浸水被害が発生した、昭和６２年８月洪水と比較すると、右表及び等雨量線図のとおりであり、昭和６２年８月洪水では主に雄物川及び皆瀬川の上流域で大雨となっているが、今回の洪水では玉川流域及び雄物川下流域を中心に大きな雨量となっている。

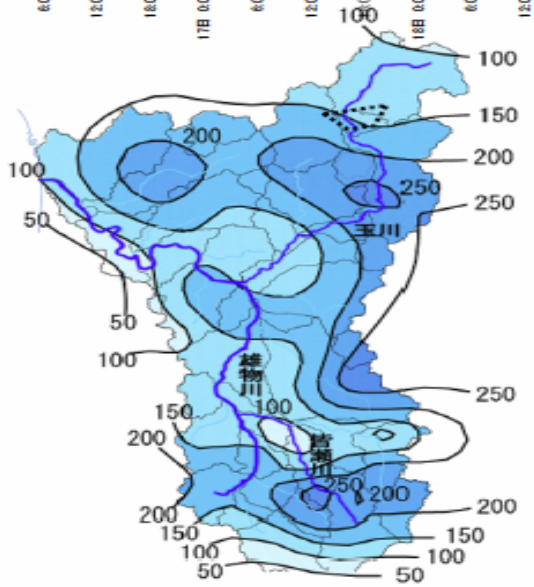
中でも玉川の支川、桧木内川で大雨となり、下桧木内観測所では時間最大３１㎜、総雨量３０４㎜を記録した。

観測所名		平成19年9月16～18日 時間最大	平成19年9月16～18日 総雨量	S62年8月15～17日 時間最大	S62年8月15～17日 総雨量
本川上流	木地山	11	65	42	207
	大柳	12	75	46	253
	湯沢	17	85	34	145
	山内	18	128	42	222
	大曲	23	177	21	175
	皆瀬ダム	9	56	36	271
玉川上流	斉内	26	191	41	165
	下桧木内	34	304	28	176
	梅森	25	270	14	113
	赤沢	29	268	13	108
	椿沢	21	181	26	137





等雨量線図（H19）



等雨量線図（S62）